

2025年度 病院感染対策活動報告

皆様に安全で安心な医療を受けていただくための取り組み

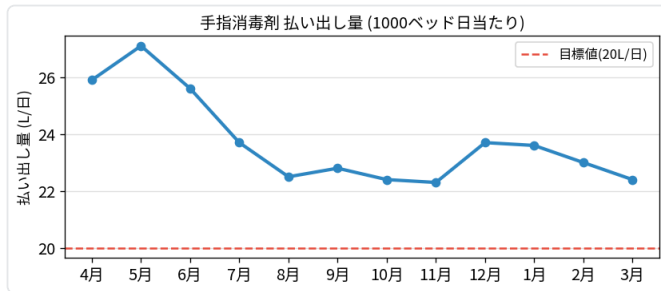
当院では、患者様を感染症から守るため、多職種（医師、看護師、薬剤師、検査技師など）が連携して感染対策チーム（ICT）を編成し、病院全体で日々活動しています。本報告書では、2025年度における当院の感染対策の取り組み状況について、一般の方にもわかりやすくご報告いたします。

1. 手指衛生（手洗い・消毒）の徹底状況

手指衛生は、院内感染を防ぐ最も基本かつ重要な対策です。

当院では、各部署への消毒液の払い出し量を毎月チェックしています。

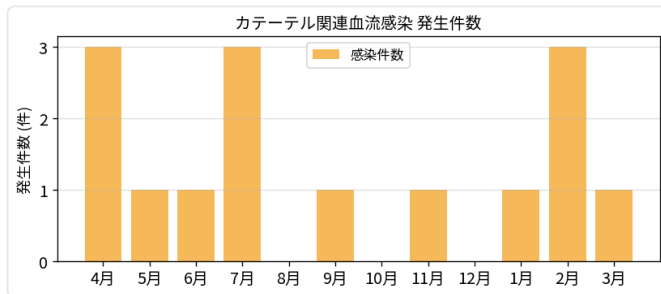
- 取り組み結果：**年間を通じて、目標値（一定の入院患者数あたりの払い出し量）を上回る良好な水準を維持しました。
- 今後の活動：**引き続き、患者様に接する前後など、適切なタイミングでの消毒を職員全体に徹底していきます。



2. カテーテル（点滴の管）に関連する感染の予防

治療のために首や胸の太い血管に管（カテーテル）を入れることがあります。この管から細菌が入り込むのを防ぐための対策を行っています。

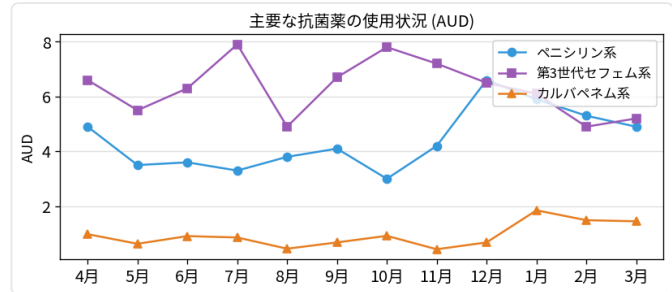
- 発生状況：**年間を通じて発生件数は少なく抑えられていますが、一部の月で発生が見られました。
- 今後の活動：**カテーテルを入れる際の無菌操作（ばい菌を入れない工夫）の徹底と、不要になった管はできるだけ早く抜く（早期抜去）取り組みを進めます。



3. 抗菌薬（抗生物質）の適正な使用

抗菌薬を使いすぎると「薬が効かない菌（耐性菌）」が増える原因になります。当院では「必要な時に、必要な量だけ」使うよう管理しています。

- **使用状況**：一部の強い抗菌薬（カルバペネム系など）は、地域の平均より少なく抑えられていましたが、冬から春にかけて重症患者様への使用が増加しました。
- **今後の活動**：専門チーム（AST）が処方内容を確認し、患者様の状態が良くなれば**より穏やかな薬へ変更**する取り組みを継続します。



4. 院内での耐性菌（薬が効きにくい菌）の監視

院内で薬が効きにくい菌が発生・拡大していないかを常に監視（培養検査）しています。

- **検出状況**：特に注意が必要な非常に強い耐性菌（CREなど）や、重い腸炎を起こす菌（CDI）は**年間を通じて発生ゼロ**でした。
- **今後の活動**：日常的に検出される菌（ESBLやMRSAなど）が他の患者様にうつらないよう、手袋やエプロンの着用、そして**病室や手すりの念入りの清掃・消毒**を徹底します。

